

# RIETI EBPMシンポジウム プレゼンテーション資料資料

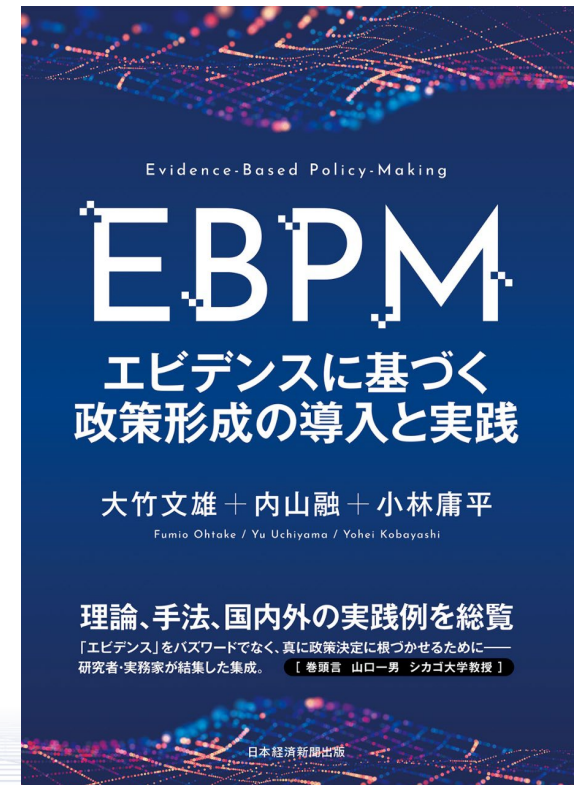
2023年3月22日

「EBPMーエビデンスに基づく政策形成の導入と実践」

大竹 文雄

# EBPMとは何か？

大阪大学CiDER  
大竹文雄



# EBPM 目次

- 第1部 EBPMの基礎：概念整理と日本における現状分析
  - 第1章 EBPMとは何か（大竹・内山・小林）
  - 第2章 「真価志向」の政策形成－因果推論と効果検証の考え方（近藤）
  - 第3章 医療におけるEBMからEBPMが学べること（関沢）
  - 第4章 EBPMに死を！（成田）
- 第2部 海外におけるEBPM
  - 第5章 米国におけるEBPM（津田・岡崎）
  - 第6章 英国におけるEBPMと日本への示唆（内山・小林・田口・小池）
  - 第7章 国際開発分野におけるエビデンスに基づく実践の進展（青柳・西野）

- 第3部 EBPMの国内事例①教育・環境エネルギー・経済産業政策
  - 第8章 教育におけるEBPM（能島・江上）
  - 第9章 環境・エネルギーにおけるEBPM（横尾）
  - 第10章 経済産業政策におけるEBPM（角谷・橋本・牧岡）
  - 第11章 広島県におけるEBPM推進の歩み（石田）
- 第4部 EBPMの国内事例②ナッジの政策活用
  - 第12章 ナッジとは何か？－基本的な考え方と日本版ナッジ・ユニット「BEST」の取組（池本）
  - 第13章 地方自治体におけるナッジ（高橋・津田）
  - 第14章 豪雨災害時の早期避難促進メッセージの作成と効果検証（大竹）

# EBPMを正しく理解する

- 従来の政策評価も含まれるがそれが中心ではない
  - EBPMを過去の政策の効果検証だけだと考えるのは間違い
  - 今後行う政策候補のうち効果が大きいものを事前テストで明らかに
  - エビデンスに基づいた政策形成のうち「政策形成」が重要
- 従来の政策形成の考え方
  - ベストの政策があらかじめ分かっているそれを実行する
    - 実際には、過去、別の場所でうまく行った政策であっても、対象者が異なると効果が異なることがある
  - 事前テストをして効果検証し全面的に社会実装というプロセスが必要
- エビデンスだけで政策は決まらない
  - 複数の政策目標がある際には、政策選択は価値観に依存する
- 強いエビデンスがないと政策を実施できないわけではない
  - 不確実性下のもとでの意思決定

# データを分析可能な形に

- データを分析可能な形に整理しておく必要
  - アウトカムとされる情報と様々な政策介入に関するデータを分析可能な形で整理する
  - 分析者に第3者を入れる
- 政策を効果検証可能な形にしておく
  - モデル事業
    - 応募したところは意欲が高い主体に偏る
  - 計測可能なアウトカムを作っておく
  - 偶然生じた政策介入の差の情報を自動的に集めておく
    - 行政データを利用可能にする

# なぜ今EBPMなのか

1. 政策資源の有効活用
2. 政策対象者・政策課題の多様化と複雑化
3. エピソードをもとにした政策形成が必ずしも効果的ではない
4. デジタル化によるデータ収集・利用コストの低下
5. 因果推論の分析手法の発展
6. 海外におけるEBPMの進展

# エビデンスとは何か

- エビデンス
  - 政策効果の因果効果を示す実証的根拠
- ロジックモデル

データに基づく  
現状把握と課題  
から目標設定

インプット  
政策に投じられた資源

アクティビティ  
政策の具体的活動

アウトプット  
活動による産出物

アウトカム  
活動に基づく成果

インパクト  
最終的变化

- 行政に見られる誤解
  - 政策の成果ではなく実施することが目的となっていることが多い
    - 政策の実施を意味するインプットを成果と誤解
    - 実施計画の達成度を占めるアウトプットを成果と誤解
  - 成果は政策によって政策目標がどれだけ改善したか
  - ロジックモデルは政策がどのようなロジックとエビデンスで政策目標の改善につながるかを示す



# EBPMと政策プロセス

## 1. 政策課題設定

- エビデンスを背景にした政策課題設定

## 2. 政策立案

- エビデンスがあればロジックモデルの作成
- エビデンスが不十分であれば効果検証を検討

## 3. 政策決定

- エビデンスがあればロジックモデルに基づいて政策決定
- エビデンスが不十分であればエビデンスが得られるように工夫した政策を決定

## 4. 政策実施

## 5. 政策評価

- 事前に準備しておいた手法で因果推論に基づいた評価

# エビデンスを作る

- 明確なエビデンスがある→政策を実施できる（正しい（ロジックモデル））
  - エビデンスがない→政策を実施しない（間違い）
- 政策課題があるがあるがなんらかの不確実性がある
  - どのような対策が効果的なのか、どの程度の効果があるのか、対象者に一律に効果があるのか
  - このような不確実性を解消するためのエビデンスを作成
  - 政策課題がある→エビデンスがない→エビデンスを作る→政策実施
  - 政策に基づいたエビデンス

## EBPMで対象とする政策（必要性）

- EBPM：代替的な手段のなかでより効果的なものを選び取る
  - 代替的な政策手段が存在するレベル
  - 具体的な施策レベルが対象
  - 事務事業レベルで効果検証→施策レベルで効果的なものに組み替える
- 効果検証の必要性
  - 政策効果の不確実性が高い（エビデンスが不十分）
  - 規模が大きい政策（規模を拡大する可能性がある政策）
  - 不可逆性が高い政策
  - 検証結果の活用可能性
  - 説明の必要性が高い政策

## EBPMで対象とする政策（効果検証可能性）

- アウトカムが定量的に測定可能
- アウトカムの分散が小さい
- データ取得コストが低い
- 対象者が多い
- 政策対象者と非対象者を分離可能
- 実施プロセスへの関与が可能
- 政策介入が非政策介入者に影響を与えない

# EBPMにおける科学とコミュニケーション

- EBPMよりもEIPM(Evidence –Informed Policy Making)
  - エビデンスや科学的知見だけで政策は決まらない
  - 複数の政策目標がある場合に、政策選択は価値観に依存
  - トレードオフの存在
  - 不確実性の存在
  - エビデンスにもとづく政策オプションの提示が重要
- 科学者から政策担当者へのコミュニケーション
  - 研究者
    - シンプルで分かりやすいメッセージを出すことに慣れていない
    - あらゆる可能性を考えてできるだけ正確なものを長文の形で情報提供
      - 政策担当者は政策的に意味のある情報や有効な情報だけを求めている
    - 従来の研究との違いや新しい技術を強調
      - 研究内容の新しさそのものは政策担当者には関係ない

# 政策担当者から市民へのコミュニケーション

- 政策担当者よりも専門知識が少ない一般市民向けには、もっとわかりやすくすることが必要
- 政策を実施する際に、政策内容の説明のフレーミングを行動科学の知見をもとに工夫する必要がある。同じ内容でも、政策の内容を示す名称、説明方法、広報手法、実施の方法で、政策効果は大きく異なってくる
- 政策を実施する際に、予告や実施のタイミング、申込みの締め切りの設定なども、十分に検討する必要
- 政策の効果を大きくするためには、結局政策を実施する政府や自治体が、国民や住民から信頼されている必要
- どのような政策の説明や実施の詳細がより効果的なのかということも、その政策が重要な場合にはエビデンスに基づいて行うことが望ましい